

今週の祈り 大斎節第4主日特待

恵み深い父なる神よ、み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 にちようがっこう
〒153-0053 目黒区五本木2-20-1
でんわ：03-3710-6031

号外243

発行日
2025年
3月30日

2019年4月から当教会でお働きになった執事高柳章江先生。来月から渋谷聖ミカエル教会へ異動されます。先生の歩みの上に神様の祝福が豊かにありますように！そしてこれまでのお働きに心より感謝します。

今週の聖書 ルカによる福音書 15：11～32

11 また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。12 弟のほうは父親に、『お父さん、私に財産の分け前をください』と言った。それで、父親は二人に身代を分けてやった。13 何日もたたないうちに、弟は何もかもまとめて遠くに国に旅立ち、そこで身を持ち崩して財産を無駄遣いしてしまった。14 何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。15 それで、その地方に住む裕福な人のところへ身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって、豚の世話させた。16 彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、食べ物を与える人は誰もいなかった。17 そこで、彼は我に返って言った。『父のところには、あんなに大勢の雇い人がいて、有り余るほどのパンがあるのに、私はここで飢え死にしそうだ。18 ここをたち、父のところに行つて言おう。』お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。19 もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』20 そこで、彼はそこをたち、父親のもとに行つた。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄つて首を抱き、接吻した。21 息子は言った。『お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』22 しかし、父親は僕たちに言った。『急いで、いちばん良い衣を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足には履物を履かせなさい。23 それから、肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。24 この息子は、死んでいたのでに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。25 とところで、兄のほうは畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りの音が聞こえてきた。26 そこで、僕の一人を呼んで、これは一体何事かと尋ねた。27 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』28 兄は怒つて

家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。29 しかし、兄は父親に言った。『このとおり、私は何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、私が友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。30 ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身代を食い潰して帰つて来ると、肥えた子牛を屠つておやりになる。』31 すると、父親は言った。『子よ、お前はいつも私と一緒にいる。私のものは全部お前のものだ。32 だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返つた。いなくなつていたので見つかったのだ。喜び祝うのは当然ではないか。』

聖書からのメッセージ 執事高柳章江

神さまがいつもそばにいてくださることのありがたさは、気づきにくいものです。今日のたとえ話にでてくる弟は、父と離れて初めて、その愛の大きさを知りました。けれど、兄はずっと父と一緒にいたため、そのありがたさに気づけませんでした。それどころか、父が弟を特別扱っているように感じ、心を閉ざしてしまいました。人は、神さまを見ずに、人を見てしまい、間違つた判断をしてしまうことがあります。それでも神さまは変わらず私たちを愛し、どんなときもそばにいてくださいます。たとえ神さまから離れてしまつても、神さまのもとに戻るなら、神さまは怒らずに、あたたかく迎えてくださるのです。